

研究員紹介

①研究内容 ②趣味 ③自己紹介

金 大心

(数理モデル・知識表現チーム、産総研特別研究員)



Taishin Kin

- ①生命の情報を担う遺伝子やタンパク配列の特徴を表現する確率モデルとカーネル法とを組み合わせた配列解析手法について研究しています。
- ②温泉に入ること。白濁温泉は良かったです。
- ③「日本語お上手ですね」とよく言われますが、本当は大阪弁が得意な大阪生まれです。

本野 千恵

(ゲノム情報科学チーム、産総研特別研究員)



Chie Motono

- ①細胞内オルガネラ間タンパク質とオルガネラ膜の性質との関係をゲノムスケールで解析したり、アミロイドーシス関連タンパク質の構造変化を分子動力学計算で探ったりしています。
- ②鳥へ行くこと。
- ③4月からお台場でバイオインフォマティクス分野の研究を始め、恵まれた研究環境に驚き感謝しています。子供に研究の内容をやさしく興味深く話してやれず、まだ研鑽不足、と感じるこの頃です。

関嶋 政和

(分子情報科学チーム、産総研特別研究員)



Masakazu Sekijima

- ①アミロイドーシスを引き起こす生体分子のコンピューターシミュレーションによる解析。
- ②面白い論文を読むこと。
- ③読書、フィットネスクラブ通い、エアロビクス、水泳など。エアロビクスはインストラクターの養成課程に通おうと思ったり、やり過ぎて脚を痛めたりするくらい好きです。バレエを見るのも好きで、一糸乱れぬコールド・バレエが好きなのですが、人間とはちょっと違う動きが出来るように見えるギエムのバレエなども好きです。

旭井 亮一

(細胞情報科学チーム、産総研特別研究員)



Ryoichi Asai

- ①マイクロアレイを用いて、エピジェネティクスの研究を行っています。
- ②食生活が悪いので、サプリメント品にはまっています。
- ③今年の6月からお台場に勤務しています。ウエットな実験をやり始めましたので外勤が多いです。

お知らせ

◆産総研国際シンポジウム 2002のご報告



2002年11月8日(金)、国際研究交流大学村・東京国際交流館にて産総研国際シンポジウム2002「ポストゲノム時代のバイオインフォマティクス」が開催され、参加者総数350名以上にものぼる活気溢れる催しとなりました。最先端で活躍する海外の研究者と、CBRC並びに産総研生物情報解析研究センターの研究者による講演が行われ、バイオインフォマティクスの現状と将来の見通しについて様々な議論がなされました。CBRCからは後藤修、浅井潔、高橋勝利のチーム長3名が一般講演に参加いたしました。

◆書籍紹介

「できるバイオインフォマティクス」

発行：(株)中山書店
美宅成樹、広川真次(ゲノム情報科学チーム) 著

“Protein Folding, Stability&Design 2002”

発行：Research Signpost (India)
M. Michael Gromiha(ゲノム情報科学チーム)、
S. Selvaraj 編

「バイオインフォマティクスの実際」(発刊予定)

発行：(株)講談社サイエンティフィック
村上康文、古谷利夫 編
諏訪牧子(ゲノム情報科学チーム)、
富井健太郎(分子情報科学チーム)も執筆に参加。

編集後記

早いもので今年もう暮れようとしております。CBRCのある東京・お台場では汗ばむような秋の陽気が続いておりましたが、11月になったとたん、東京湾から冷たい風が吹きすさび、私はあっという間に風邪を引いてしまいました。皆様もくれぐれもご用心下さい。引き続き本ニュースレターに関する皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。(Y)

CBRC ニュースレター No.2 2002年12月号

●編集発行 独立行政法人 産業技術総合研究所 生命情報科学研究センター
〒135-0064 東京都江東区青海2-41-6 TEL: 03-3599-8080 FAX: 03-3599-8081
E-mail: info@cbrc.jp http://www.cbrc.jp/ 平成14年12月 禁無断転載